

東京乳剤センター開所

大成ロテック

昭和瀝青工業

大成ロテックとアスファルト合材の材料ストレートアスファルト（ストアス）を扱う昭和瀝青工業（兵庫県姫路市、濱本博司社長）

は20日、東京都大田区の大成ロテック城南島リサイクルセンター内でアスファルト



乳剤タンク（奥）とディストリビューター

ト用乳剤を扱う「共同企業体東京乳剤センター」の開所式を開いた。大成ロテックの西田義則社長や昭和瀝青工業の濱本社長らが出席。乳剤販売事業の発展を祈念するとともにセンターの完成を祝った。

同センターの所在地は城南島3の3の1。50トタンク2基を設置し、3種類の乳剤を取り扱う。乳剤散布車両「ディストリビューター」は2台用意した。昭和瀝青工業が製造した乳剤を大成ロテックが貯蔵し、自社工事での使用や顧客への



西田社長

販売を行う。

大成ロテックはこれまでアスファルト合材だけを手掛けていたが、乳剤も扱うことで顧客からのアスファルト合材と乳剤のオーダーをワンストップで対応できるようにになる。昭和瀝青工業の乳剤技術を生かした商品を販売する。

同日の開所式で、大成ロテックの西田社長は「城南島が持つたくさんの魅力を最大限に生かしながら、まちづくりの新たな歩みを刻む一助になりたい」と意気込んだ。昭和瀝青工業の濱本社長は「安心して使ってもらえる品質を安定的に供給するのが当社の使命だ。大成ロテックにしっかり使ってもらえるよう頑張っていく」と述べた。